

蘇れ、幻の観音寺城

観音寺城|本谷プロジェクト



観音寺城

全般 基本計画

史跡観音寺城跡整備基本構想・基本計画

👤 jono 📅 2024年4月12日 🗣 0 Comments 🖍 編集

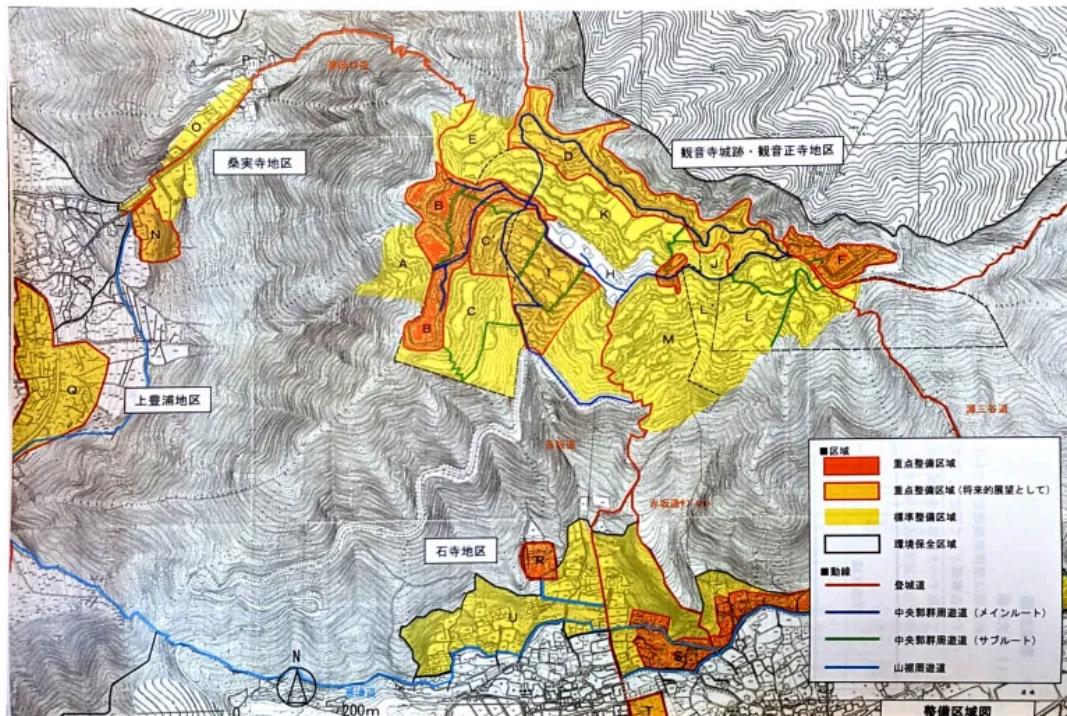
2008年に史跡観音寺城跡調査整備基本構想・基本計画報告書というタイトルの報告書が滋賀県の教育委員会から発行されています。

滋賀県のwebページ「史跡観音寺城跡の調査と整備」でも紹介されているのでご存じの方もおられると思います。A4サイズ 118ページにまとめられたこの報告書は、調査・整備事業のベースとして2年がかりで策定されたもので、その理念・方法などが詳しく示されています。その内容は攻めの姿勢を感じさせるものとなっており、末尾に記にある17.7億円という多額の整備費用の試算からは、観音寺城跡の価値が高く評価されている事がうかがい知れます。まさにの観音寺城は別格の扱いであるといえます。しかしこの報告書が発行された後も公的期間による城域の整備に進展は見られません。

またこの報告書では、本谷遺構の伝後藤・進藤邸付近が重点整備区域とされており、本谷プロジェクトの基本路線と一致しています。そして今、この報告書を指針として位置付け、城跡遺構の保全と利用環境の整備に向けて意を強くしているところです。

本谷遺構は重要整備区域：史跡観音寺城跡調査整備基本構想・基本計画報告書

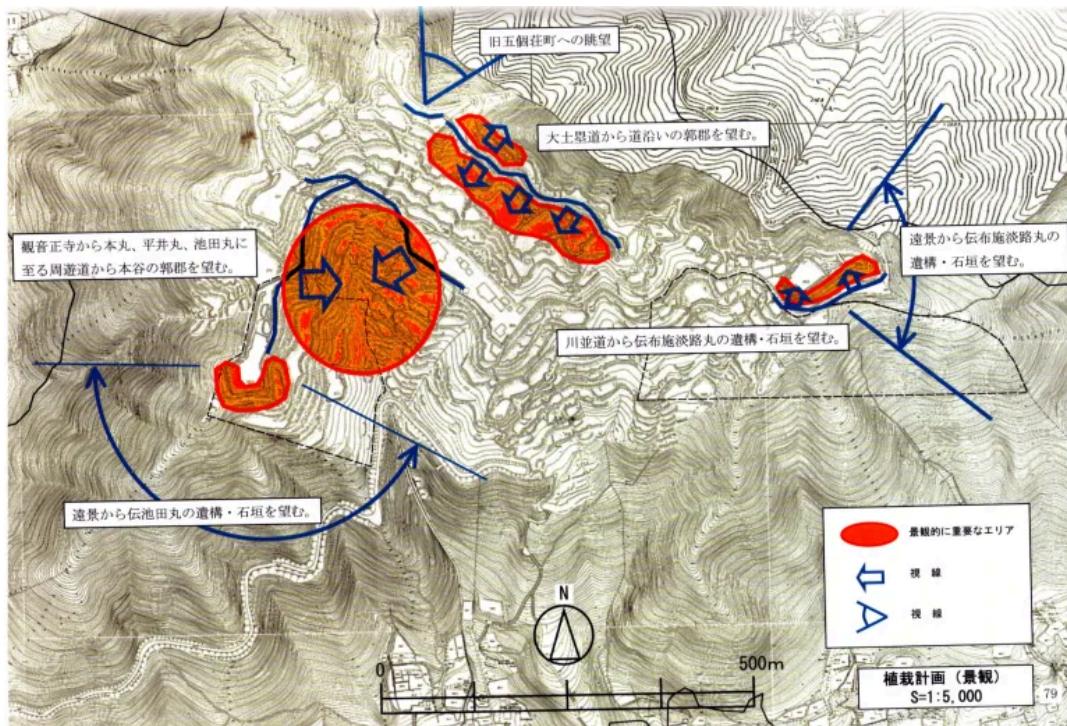
116ページより



本谷の伝後藤・進藤邸付近が重点整備区域とされている。しかし将来的な展望として、という添え書きが見られる。

遺構に対する導線の確保：史跡観音寺城跡調査整備基本構想・基本計画報告書 79

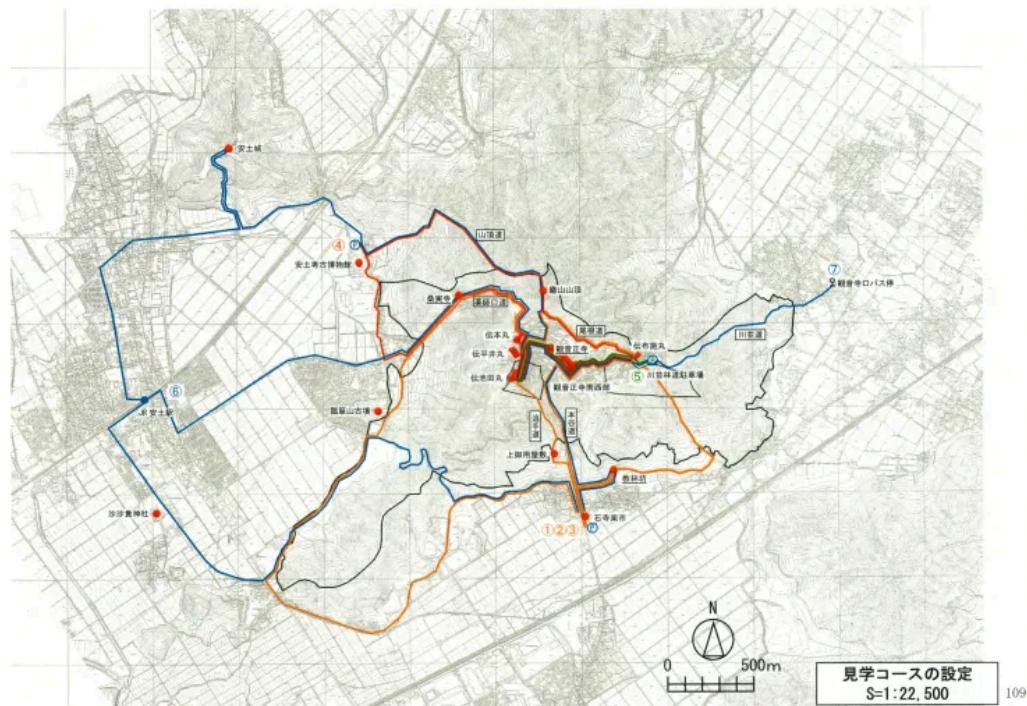
ページより



観音商事から本丸→池田に至る既設の散策路から、本谷の伝後藤・進藤邸付近への見通しの確保が意図されている。

見学コースの設定：史跡観音寺城跡調査整備基本構想・基本計画報告書 108-109

ページより



②見学コースの設定

来訪者に、観音寺城を効果的に見学してもらえる推薦コースを設定する。
出発点や時間、健脚によっていくつかの見学コースを設定する。

※文字は観音寺城の要素

文字は観音正寺、桑実寺の要素

文字は石寺城下町の要素

文字は山道

①石寺コース

石寺→教林坊→本谷道→観音正寺南西部→観音正寺
→伝布施丸→尾根道→伝本丸→伝平井丸→伝池田丸→追手道→上御用屋敷→石寺
距離約4.0km、高低差約300m、時間約2時間（時速2km）

②石寺・上豊浦コース

石寺→教林坊→本谷道→観音正寺南西部→観音正寺→伝布施丸→尾根道
→伝池田丸→伝平井丸→伝本丸→薬師口道→桑実寺→瓢箪山古墳→上豊浦地区→石寺
距離約9.0km、高低差約300m、時間約4.5時間（時速2km）

③石寺・源三谷道コース

石寺→上御用屋敷→本谷道→観音正寺南西部→観音正寺
→伝本丸→伝平井丸→伝池田丸→尾根道→伝布施丸→源三谷道→教林坊→石寺
距離約4.5km、高低差約300m、時間約2.5時間（時速2km）

④博物館コース

博物館→山頂道→尾根道→伝布施丸→観音正寺
→伝池田丸→伝平井丸→伝本丸→薬師口道→桑実寺→博物館
距離約5.5km、高低差約350m、時間約3時間（時速2km）

⑤観音正寺コース

川並林道駐車場→伝布施丸→観音正寺→伝池田丸→伝平井丸→伝本丸→川並林道駐車場
距離約2.0km、高低差約60m、時間約1時間（時速2km）

⑥JR安土駅コース

JR安土駅→桑実寺→薬師口道→伝本丸→伝平井丸→伝池田丸→観音正寺→伝布施丸
→観音正寺南西部→本谷道→教林坊→石寺→上豊浦地区→沙沙貴神社→JR安土駅
距離約12.0km、高低差約300m、時間約6.0時間（時速2km）

⑦縦断コース

観音寺口バス停→川並道→伝布施丸→観音正寺
→伝池田丸→伝平井丸→伝本丸→山頂道→博物館→安土城跡→JR安土駅
距離約8.5km、高低差約300m、時間4.5時間（時速2km）

本谷道を主な登城道として、各ルートが設定されている。

この報告書では、観音寺城跡整備に関する指針が明確に示されているだけでなく、主要な遺構に対する導線確保のなどについて、具体的な手法にまで踏み込んで言及されています。まさにこれは、本谷プロジェクトの活動指針になり得るものであり、当方としても今後はこの内容に沿って整備を進るべきなのではないかと考えているところです。

一刻も早くこの報告書に沿った観音寺城跡の整備事業が開始され、より多くの人に愛される観音寺城跡に生まれ変わることを願っています。